

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	205	1年	後期	看護学科	必修	生活援助技術論Ⅱ Nursing Methods for assisting Daily Living II	60	2
担当教員								
徳永 なみじ	香川 里美	北川 恵		谷本 淳子		森 敬子	大野 祐子	
野本 百合子								
関連するDPキーワード（看護学科）								
<input type="radio"/>	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
基本援助技術論、生活援助技術論Ⅰをはじめとする既習の知識・技術を基盤とした、日常生活援助技術および関連するフィジカルアセスメント技術を学ぶ。事前学習、グループ学習、演習を設定し、主体的な援助技術の習得を目指す（オムニバス方式）。演習は、3～4人1組とし、看護者役、患者役、観察者等を交互に体験する。								
到達目標（授業目標）								
1 援助技術を実施するための根拠となる知識が記述できる。								
2 援助技術の実施方法について、安全・安楽・自立の観点から説明できる。								
3 メンバーと協力しながら、主体的に学習課題および演習を行うことができる。								
4 技術演習を振り返り、自己課題と改善策を演習後レポート内に記述できる。								
5 援助技術を安全・安楽・自立に配慮した方法で実施できる。								
6 看護を提供するための基礎的なフィジカルアセスメント技術が実施できる。								
回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）							
1回	科目オリエンテーション、観察・記録・報告技術：観察・記録・報告に関する基本的知識と方法（徳永なみじ）							
2回	フィジカルアセスメント技術Ⅰ：バイタルサインの基本的知識と測定方法、循環器系・呼吸器系のフィジカルアセスメント（徳永なみじ）							
3回	フィジカルアセスメント技術Ⅰ：＜演習＞バイタルサイン測定、循環・呼吸機能のアセスメント技術（徳永なみじ、他全員）							
4回	フィジカルアセスメント技術Ⅰ：＜演習＞バイタルサイン測定、循環・呼吸機能のアセスメント技術（徳永なみじ、他全員）							
5回	排泄援助技術：排泄の基本的知識とアセスメント・援助方法、自然排泄と浣腸、超音波診断装置による大腸の観察と残尿量測定（香川里美）							
6回	排泄援助技術：排泄の基本的知識とアセスメント・援助方法、自然排泄と浣腸、超音波診断装置による大腸の観察と残尿量測定（香川里美）							
7回	排泄援助技術：＜演習＞排泄機能のアセスメント技術、床上排泄・浣腸の援助技術（香川里美、他全員）							
8回	排泄援助技術：＜演習＞排泄機能のアセスメント技術、床上排泄・浣腸の援助技術（香川里美、他全員）							

9回	排泄援助技術：＜演習＞排泄機能のアセスメント技術、床上排泄・洗腸の援助技術（香川里美、他全員）
10回	経管栄養法：経管栄養法に関する基本的知識とアセスメント・援助方法（森敬子）
11回	経管栄養法：経管栄養法に関する基本的知識とアセスメント・援助方法（森敬子）
12回	経管栄養法：＜演習＞消化・吸収機能のアセスメント技術、経管栄養法（森敬子、他全員）
13回	経管栄養法：＜演習＞消化・吸収機能のアセスメント技術、経管栄養法（森敬子、他全員）
14回	これまで学習した知識のまとめ（全員）
15回	清潔・衣生活援助技術：清潔の基本的知識とアセスメント・援助方法（北川恵）
16回	清潔・衣生活援助技術：＜演習＞皮膚・粘膜のアセスメント技術、洗髪、全身清拭・寝衣交換、陰部洗浄・おむつ交換（北川恵、他全員）
17回	清潔・衣生活援助技術：＜演習＞皮膚・粘膜のアセスメント技術、洗髪、全身清拭・寝衣交換、陰部洗浄・おむつ交換（北川恵、他全員）
18回	清潔・衣生活援助技術：＜演習＞皮膚・粘膜のアセスメント技術、洗髪、全身清拭・寝衣交換、陰部洗浄・おむつ交換（北川恵、他全員）
19回	清潔・衣生活援助技術：＜演習＞皮膚・粘膜のアセスメント技術、洗髪、全身清拭・寝衣交換、陰部洗浄・おむつ交換（北川恵、他全員）
20回	清潔・衣生活援助技術：入浴の基本的知識および援助方法（北川恵）
21回	フィジカルアセスメントⅡ：神経系・感覚器系・セクシャリティのフィジカルアセスメント（大野祐子）
22回	フィジカルアセスメントⅡ：神経系・感覚器系・セクシャリティのフィジカルアセスメント（大野祐子）
23回	フィジカルアセスメントⅡ：＜演習＞神経系・感覚器系・セクシャリティのアセスメント技術（大野祐子、他全員）
24回	フィジカルアセスメントⅡ：＜演習＞神経系・感覚器系・セクシャリティのアセスメント技術（大野祐子、他全員）
25回	活動・休息援助技術：活動・休息の基本的知識と援助方法、電法（谷本淳子）
26回	活動・休息援助技術：活動・休息の基本的知識と援助方法、電法（谷本淳子）
27回	活動・休息援助技術：＜演習＞手浴・足浴、リラクゼーション（谷本淳子、他全員）
28回	活動・休息援助技術：＜演習＞手浴・足浴、リラクゼーション（谷本淳子、他全員）
29回	フィジカルアセスメント技術Ⅲ：フィジカルアセスメント事例学習（徳永なみじ）
30回	技術のまとめ＜演習＞

成績評価方法及び基準

筆記試験60%、実技テスト20%、事前学習課題・演習後レポート・小テスト20%で評価する。トータル60点以上を合格とする。事前学習課題・演習後レポートの提出期限が守れない場合は、評価対象外とする。

教科書	任和子他「系統看護学講座-基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ」医学書院 任和子他「系統看護学講座-基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ」医学書院 大久保暢子「日常生活行動からみるヘルスアセスメント」（日本看護協会出版会）
参考図書等	医療情報科学研究所（編集）「看護がみえる vol.1 基礎看護技術」メディックメディア 医療情報科学研究所（編集）「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」メディックメディア

授業時間外の学習について（授業準備のための指示）

事前学習は講義および演習内容の予習、事後学習は演習内容の振り返りが主な内容となる。また、演習前には事前学習課題の提出を必須とする。

関連科目

前科目	201	看護学概論	203	基本援助技術論	204	生活援助技術論Ⅰ	208	基礎看護学実習Ⅰ		
後科目	202	看護倫理	206	診療援助技術論	207	看護過程	209	基礎看護学実習Ⅱ		

実務家教員

看護師（医療機関）	徳永なみじ	香川里美	北川恵	谷本淳子	森敬子	大野祐子
看護師（医療機関）	野本百合子					

備考	既習の知識や並行して学ぶ知識を活用して学習をすすめる。 テキストや参考書に加え、図書館の蔵書を活用する必要がある。 単元ごとに事前学習課題や演習後レポートの提出がある。
----	--